



八雲抄  
三

伊地知文庫  
文庫20  
288  
3



文庫  
288  
3

八雲抄第三上

枝葉部

天象

辰取

伊地知氏書冊

時辰

算

東之泉庫

地儀

天象歌

天

わま 元々〜と云 のり〜が〜 河津山ぞう

河津山ぞう 見ぞう ぞのまのま ぞうれ海

おぼろ〜 ちのち見 後歌抄

見ぞり乃る〜と云 梯炭経流 南浮列八須弥

山聖瑠璃山つら〜と云 見ぞり也といふり

わまのうた〜と云 天は〜め〜め神々神

とあり〜と云 海をた〜と云 海を〜と云 海を〜と云

あふ〜と云 ちのち〜と云

河ま乃い〜と云 わまのひ〜と云 河ま〜と云

てを〜と云 河まの〜と云 河まの〜と云

八世持三上

下





わりの海乃月を 十六日以後とす 一在匡等  
 性生傳 いさよひ乃月を十六日月也 是海良  
 方也や 但方家よの不知秋歴月と云り 凡上  
 旬月を五の裡隆北十六日十七日自月詠を何種哉  
 但方人致皆十六日也云云 是く月とありよ  
 さしといふなり 可 可世ての月を凡ち云々 衆あり  
 とり又細成あり 是く月を凡ち云々 衆あり  
 河くさく 可十七日乃月を凡ち云々 衆あり  
 うとちらげたるよとそふ事よ々々 是北  
 十六日の月あり 凡ち月を凡ち云々 衆あり  
 乃まひさきかといふなり 女乃眉よ凡ち云々 衆あり  
 眉といひおのめ乃月を凡ち云々 衆あり  
 源流河なり也

星 卯乃林 卯乃星なり 卯乃星 卯乃星

ひこ星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

卯乃星 卯乃星 卯乃星

風 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星 卯乃星

わあ〜いぬさし ひ〜 日方ひけ〜う後抄抄異風也危甚ハ

なま津 まら 海津のあ わ あの方とくきり是れおかし

いのか あら〜 枯き 山に流〜 中書時化方 是れ陸の河也

河切ら〜 さよあけく 山〜 うらうら わたれきり

燈ら 志乃〜 さし せ せ くささうら

あふら あまあひく 後抄 わ〜 やうを

り〜 あせ せ せ風 さぬを

已上三六 風〜 いさ 山おら〜 吹と 下り風

流ら〜 さ 社さ〜 よ 風さ〜 せ せ〜 や せ

葉お〜 は せら〜 ら せら〜 ら せら〜 ら

〜 あ あり あ あり あ あり あ あり

但〜 は 枝の〜 い 風の〜 い 風の〜 い 風の〜

正遊冬和と難〜 い 果 ら 流わ〜 い せ

〜 い 風 ら 風 ら 風 ら 風

や 異風 後抄 若風〜 い 風 ら 風 ら 風

浪東風〜 い 氷可〜 い 風也 但北〜 い 風又

嵐 あ〜 い 山 川

嵐乃〜 い 葉中〜 い 風 ら 風 ら 風

あ〜 い 風 ら 風 ら 風 ら 風

あ〜 い 風 ら 風 ら 風 ら 風

あ〜 い 風 ら 風 ら 風 ら 風

よふあをなすし後夜をどあんと じつ山風を幸ふ

ひらりよあつしつしつあり 賀茂社より海へ

わしり曲つゆしつり海わしりり例るり

ぬきよめ ぬきよめ ぬきよめ ぬきよめ

ゆきよら ぬきよら ぬきよら ぬきよら

よこよめ 海氏曰 聖が御也 ぬきよ月 くのたつ

空五月 万十よらつこれし ぬきよわめ ぬきよ

夕しり ぬきよ わまらぬきよら

よありぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよ ぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

あり ぬきよぬきよぬきよ

雲 ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

かき わまらぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

ぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよぬきよ

一切の物もわらうと入るもわらうとわらう  
 も山かきこころ 菊がこころあり  
 又よまるといふもわらう 菊は朝みこころあり  
 秋といひありわらうとわらうとわらう  
 菊もわらうとわらうとわらうとわらう  
 乃とこころ 同和や月 菊もわらう 菊もわらう 菊もわらう  
 菊もわらうとわらう

菊 わさ ゆふ うきと 雲 八八 八重の花は必非八重一切物もわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらう 菊もわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう

菊 わさ 夕 夕と 秋 わさ 川 山 海 菊

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう

菊もわらうとわらうとわらうとわらう 菊もわらうとわらうとわらうとわらう



勇よすくくるうくひとと云流もも此也方々の  
 ちよゆならならく 方よんゆいゆいありあつ  
 痛もやの如心海へー 又さひこの勇ともい  
 いさうささき 気も勇 又勇を勇 秋 ありよあつと  
 秋よりよあつー 秋どかきささしととあふわり  
 霧 翔 ゆよ あう うと あい そのゆら 舞  
 あり方よさゆあゆよささきささきささきささき  
 後撰母あふり秋ささきささきささきささきささき  
 心より 此ゆのささきささきささきささき  
 心ゆいささきささきささきささきささきささき  
 後撰よささきささきささきささきささきささき  
 いつり 方よ也 後よのささきささき ささきささき  
 名物乃物なり

勇よすくくるうくひとと云流もも此也方々の  
 ちよゆならならく 方よんゆいゆいありあつ  
 痛もやの如心海へー 又さひこの勇ともい  
 いさうささき 気も勇 又勇を勇 秋 ありよあつと  
 秋よりよあつー 秋どかきささしととあふわり  
 霧 翔 ゆよ あう うと あい そのゆら 舞  
 あり方よさゆあゆよささきささきささきささき  
 後撰母あふり秋ささきささきささきささきささき  
 心より 此ゆのささきささきささきささきささき  
 心ゆいささきささきささきささきささきささき  
 後撰よささきささきささきささきささきささき  
 いつり 方よ也 後よのささきささき ささきささき  
 名物乃物なり

八雲抄三上

勇よすくくるうくひとと云流もも此也方々の  
 ちよゆならならく 方よんゆいゆいありあつ  
 痛もやの如心海へー 又さひこの勇ともい  
 いさうささき 気も勇 又勇を勇 秋 ありよあつと  
 秋よりよあつー 秋どかきささしととあふわり  
 霧 翔 ゆよ あう うと あい そのゆら 舞  
 あり方よさゆあゆよささきささきささきささき  
 後撰母あふり秋ささきささきささきささきささき  
 心より 此ゆのささきささきささきささきささき  
 心ゆいささきささきささきささきささきささき  
 後撰よささきささきささきささきささきささき  
 いつり 方よ也 後よのささきささき ささきささき  
 名物乃物なり

かろく ぼく みる みる 色いん 色  
本音 ぼく

おきき ぼく みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる

みる みる みる みる みる みる みる  
みる みる みる みる みる みる みる



曉 志乃め 後晨と 山々清々 曉天重 わりはる

わさよき や 曉ぞし や 芳よわらふ や 死ともいひ

身をまろく や 曉め や 可河清し や 可めく や 暮中定

志こそ や 可河清し や 可めく や 可めく や 可めく や

あり や 可河清し や 可めく や 可めく や 可めく や

里 楯目と云 可河清し 可めく 可めく 可めく

あひめ 可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく

河げ 可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく

曉ぞし 可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく

朝 可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく

物わ 可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく

日 霞 雲 芳 露 風 嵐 霧 氷 雪 川

志 不 可 河 清 可 可 可 可 可 可

な 菜 加 可 可 可 可 可 可 可 可

志 不 可 河 清 可 可 可 可 可 可

夕 可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく

可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく 可めく

可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく 可めく

可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく 可めく

可河清し 可めく 可めく 可めく 可めく 可めく

日 霞 雲 芳 露 風 嵐 霧 氷 雪 川

流くよ 予り日入後わつ死雲のらつよ似也 志  
津く星 燈 とも見 時ぬ る死 志ぬ  
浪 河 江 落 千 鳥 かり せ 入  
あり ともろか 弁 山 くら

新 ひまわり ひまわり ひまわり ひまわり ひまわり

らよ あつた あつた あつた あつた あつた

さいり あつた あつた あつた あつた あつた

又百 あつた あつた あつた あつた あつた

志 あつた あつた あつた あつた あつた

さよ あつた あつた あつた あつた あつた

よ あつた あつた あつた あつた あつた

よ あつた あつた あつた あつた あつた

十六日也九十六日也 あつた あつた あつた あつた あつた

巡派十六日也 あつた あつた あつた あつた あつた

よ あつた あつた あつた あつた あつた

舟 あつた あつた あつた あつた あつた

よ あつた あつた あつた あつた あつた

さ あつた あつた あつた あつた あつた

ら あつた あつた あつた あつた あつた

あ あつた あつた あつた あつた あつた

よ あつた あつた あつた あつた あつた

よ あつた あつた あつた あつた あつた

よらわしむに花散らさむとてあはれむ  
 ちかきよむじよらわしむとてあはれむ  
 ぬきひらひのやまきいほの月もはなれ  
 けむる海女あわしむとてあはれむ  
 めくくいつの神女あはれむとてあはれむ  
 らわらむとてあはれむとてあはれむ  
 さやうよとてあはれむとてあはれむ  
 くらき散らさむとてあはれむ

風河海田越きとあつまぬ  
 人さだかきととてあはれむ

あはれむとてあはれむ

旬ころをひとてあはれむ

正月むつこ子日ころの 子日無松の 歌季歌

二月 米ささき

三月やうひ 三日の桃為曲の日道空河系也典  
 八全勸玉詠仙河系道空之除法罪とて外典公為也  
 宋書云自魏己後用三日又用上己後曆始紀云因  
 云下城海邑海系浪酒秦昭とて三月上己河上河海  
 全人者自割水心銀とて月とて西交とて一  
 是別曲名宴始也

正月 ころをひ

又月さほさ あつきたよ じま乃松 あつきたよ 端牛

首蒲る曲 いかにあらう

六月 みるほさ 六月後の神さくひあさひの

さくひあさひの いかにあらう 夕又秋さくひありは後

かたに乃みるほさくひあさひの月さくひあさひ

やあさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

七月 夕 あつきたよ 七夕 自然代七月七日夕舞

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ

あさくひあさひの月さくひあさひの月さくひ





山 遠く海らう 千重の山にけり ちりた  
しんがひのまあり 山はさかたけの  
のひくじなごころをいふなりやあまの海より  
なまらうまのくつろぐ人あはれ也七夕よ方人物  
とらふもの 又橋のしよ物とくも皆さるる旅路

八月 とうきさ 十八日

九月 あらうき ことゑの林 九月 重陽

以筆花為曲

十月 かしらけいさ 山はさかたけの結露月とく

十一月 志もけいさ

十二月 志もけいさ

地景記

地 志もけいさ わらわい

山 わらわいさ 志もけいさ 山乃くひ 間也

志山 夏林冬夕 山乃くひの 緑の奥

とと 志も 志も 志も 志も 志も 志も

わら 西水ひら 中よま ひら

いそ 橋中 柳並 志も 志も 志も

志も 志も 志も 志も 志も 志も

わらひのさかたけ 志も 志も 志も

山乃くひの 山乃くひの 志も 志も

志も 志も 志も 志も 志も 志も

紀高まなましむらり 山乃くさきまのさか

のつらみらと云一説 未奇之 いとく見ら 雲疊多

秋のまを石松踏いしゆ石合と 岩志げの山也

らくそらうろと波しとくめくつら貴山也

志井の秋葉とてとて思ふみらまぬ山あり松葉多

うをせめくお葉せぬうくふありた今世は多

川升屋水道もく田里寺風

嵐おろくあくせ 下流田下風松柳

紫わの楸ゆき 鳥 歌の娘人仗

鳥まをく山よりいひま 山 如掌

秋廻かこくはく ともん ことり せん

か有り 日暮夜 ひこ へ 中

暮 けくとも 五五五五 わまそ葉 産く葉 万岑

くけとを 秋 千の秋 琴のあまのあ ともん ことり せん 後折

昔 かし かし かし かし かし かし

坂 わのまの ことり かし かし かし かし

林 ちゆうご ちゆうご 赤林 鶴林 弘藏下也 木之松也 山鶴

園 かし かし かし かし かし かし

野 まま野 万夜 冬 やき ちゆうご わのまの

とそえ ちゆうご のり のり ちゆうご ちゆうご

ちゆうご のり のり ちゆうご ちゆうご



とて流るる水もあつちの海に流るる水もあつちの海  
とて流るる水もあつちの海に流るる水もあつちの海  
とて流るる水もあつちの海に流るる水もあつちの海  
乃川也 風勢 おろし 流水 激 岸  
舟 柳 藤 社 系 舟 志 川 志 巻  
へ 船 上 波 かり 戸 子 巻

湖 志 巻 後 池

湖 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池

池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池

池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池

池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池

池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池

池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池  
池 志 巻 後 池 志 巻 後 池

乃らせり 加毛河乃後せたりきこりたり  
破らりてこの後抄 こゆりて

あつと云も破る今様よ招きよきいしあが  
と云一紙と破ると云是いと也 海川池湖  
いしりてあれんしんもいしり  
あつと云もあつと云もあつと云も

洗 人めはくんといしりて 洗 井しよと云り  
井洗と云りひきさるるはしりてあり

漲 あつと云も後抄 あつと云も 井しよと云り  
よ人いよと云り後抄 あつと云も 井しよと云り

海 あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り  
田海也 あつと云も 井しよと云り

あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り

溪 やまのゆ 八百日ゆ あつと云り

嶋 中月 林 ひさり 後抄 登り嶋うくせと云り

嶋 あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り  
嶋 あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り

巖 あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り

石 あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り

わま石 あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り

とあま あつと云も 井しよと云り あつと云も 井しよと云り

石を 石枕 石座 石橋 お前の目取の石を  
流すのりしき 石の 石のぬ 石の 石の  
わらわ あまのりしき 石のぬ あまのりしき 石のぬ あまのりしき  
わらわ あまのりしき 石のぬ あまのりしき 石のぬ あまのりしき  
わらわ あまのりしき 石のぬ あまのりしき 石のぬ あまのりしき  
わらわ あまのりしき 石のぬ あまのりしき 石のぬ あまのりしき

あり 八月初の日のまき 七日の日のまき  
あり 八月初の日のまき 七日の日のまき  
あり 八月初の日のまき 七日の日のまき  
あり 八月初の日のまき 七日の日のまき

舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中

あし 舟中 舟中 舟中  
あし 舟中 舟中 舟中  
あし 舟中 舟中 舟中  
あし 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中

舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中  
舟中 舟中 舟中 舟中

舟中

舟中



わん 万石川 海 あり さ 池にさすも 海に湖をさす 海に浪を

多勢多命をいふよあるま非 俗今様も多乳

浦 浪 万母 一さ わさ うたし 浦せよま 魚へ

魚 万母の わさ 白 さ 好者多 石さうら 田

わさへ万 い知へ 万五百重 ちん 千重 わさわ万

河させさう 教 と 万わの 波 河さいせ 万

いんちん 一さよよまをる浪ありそのまをる白浪万

のさく 万浪波也 いさ 六指 山下 せき川 いさ浪のさく 万けてこり

あさゆみ花 一くくま 柳家 万と ゆく

と川浪をいあり 海波わさ来せおあさうと云

人あさなといふまあまといふあり 加へん

あさいさちかこ乃るたといふ也 奥月人月を的

とらえたり 心を盡さ浪をらうとて海乃さく

おくがりのちと

塩 さし海 月のつら 万さ 万 夕

浦 おさ川 万ち 柳家 万さ 万さ 万さ

と海さ井を あなごい合 ぬがりの あなひ乃あさりちあな乃

ち海あまこさる也と海さいれひぬる海なとよのつ

よさくおりまをる也 ち井さのじまといふ井まをる

とら俣勢乃園也 塩のさ井 塩い ち井風

塩 塩 ち井ち みる ひさ ちく

海 い 河ま乃まをるが わさのあさくをい 万けてこり



淵 せよ三浦浦抄

滑乃 わさ

去 わさりのくさ ちい 倉りちと也 乃 へ 坡 万のち也

あやふ 萬志 ぬんふ 万志かこのあま ちいさりのり ちいさりのり へんれり 後者

ひこ 土 万のちとちか ひこ ひちりり ひちりり わさ 万のち

けつ 乃 わさ 池をのわさるる ちか 柳はやく

田 林 さり 坂 山 りと 乃 万のち わさ

去乃 乃 万のちとち 廣 田 梅田 亦 あり 乃 乃 也

ちく 万無 物 林 と 乃 乃 の 乃 乃

さし 万のち 万のち みさ ぬま 万 野 万 乃 乃

い 乃

万又 浮 乃

田 あり 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃



橋 千早の 日本紀

家 一と千早乃家 万 家と一坂之記と云わたり  
是未動の也 万よる記と云ふは後人の言  
物なり也 推之於此と云ふは月日の也 云々  
さるる也 神乃名とも云核案とも云然一坂  
名記 一とも云家の外なりと 云々  
少るるといふらある也

急 万と云ふは月と云ふは一と云ふ

戸 御 石 わまの石 山橋 橋本舟 河 云々の

わまの乃 松の 萬乃 一と云ふ 神乃の記と云  
紙 わまの乃の 一と云ふ 萬乃 禁中 云々

開の 舟乃 一と云ふ 萬乃 一と云ふ 万 一と云ふ  
くまの 葉門也

門 わまのいも門 一と云ふ 御 万 石 後記

開乃石 くまの葉門の石 小全門 万 万ま乃川下

水門 万まの川下 万 一と云ふ 万 一と云ふ

松の 舟乃 一と云ふ 万 一と云ふ  
わまの 萬 一と云ふ 一と云ふ

秀 万 一と云ふ

卿 万 一と云ふ 不入

山 一と云ふ 一と云ふ 一と云ふ

一と云ふ 一と云ふ 一と云ふ 一と云ふ



わし乃屋へ わき乃くま せう死乃 とうと青乃  
まくの まとの赤く死 くら乃くま垣 緑色 海  
中色 くら乃くま せう び二の垣六 海仙のあり ひかろるる 緑の 難く  
黒 修治品 ねんくまのくま せうくま せうくま せうくま せうくま  
とみなるくま せうくま せうくま せうくま せうくま せうくま  
せうくま せうくま せうくま せうくま せうくま せうくま

**路** ぬらららるる

山 家 若 へ 登 野 岡 浦

浪 雲 へ 風 破 通 夏 剣 乃

中 腹 下 上 一 介 細 川 海成の川をうり せうくま せうくま

東 へ けらるる 乃 せ 大わらうとつら せうくま せうくま

修 志 乃 けらるる せうくま せうくま せうくま せうくま

足 乃 けらるる 海 けらるる せ せ 後 乃 せ 乃 せ

法 乃 けらるる 紙 乃 紙 中 紙 乃 乃 紙 乃 乃 紙 乃 乃 紙 乃

紀 律 けらるる 出 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

中 へ ひかのがらるる 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

道 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

**ち** 山 登 乃 乃 乃 乃 乃

**村** ひと

**花** 御 花

升御山はくまかいかろ

國名部

日本紀曰 倭弊落言 けむと目曰 日本國 浦安  
乃云 細支千足云 碓輪上秀真國 後大己尊大祚  
目之玉璫乃國の玉といひりわりの玉の玉とい  
るるる玉國也 わりりりり國 玉の玉  
見る玉 おまりの 玉 まりの 玉 まりの  
とりの國 玉 まりの國 玉 まりの玉 玉 まりの玉  
とりの玉 又大和乃也 出の玉 玉 まりの玉  
ひの國 わりの 玉 まりの 玉 まりの 玉 まりの

日本紀には諸國をいひりて

わりの玉 人の ありるの ころ

あつるの 新羅也 糸の玉

あつるの 玉 まりの玉 玉 まりの玉 玉 まりの玉

玉 まりの玉 玉 まりの玉 玉 まりの玉 玉 まりの玉

玉 まりの玉 玉 まりの玉 玉 まりの玉 玉 まりの玉

山城 大和 河内 和泉 攝津  
倭 倭 志摩 尾張 冬河

色江 <small>後名</small>	駿河	伊豆	甲斐	相模
武蔵	安房	上総	下総	常陸
出羽	美濃	飛騨	信濃	上野
下野	陸奥	出羽	美濃	越前
加賀 <small>後名</small>	能登	能登	越中	越後
佐渡	丹波	丹波 <small>山</small>	信濃	同播
伯耆	出雲	石見	隠岐	播磨
美作	備前	備前 <small>山</small>	備後	安藝
同防	長門	紀伊	淡路	阿波
讃岐	伊予	土佐	筑前	筑後
肥前	肥後	豊前	豊後	日向

大隅 ひな中也 日向 日向乃ひなの名

辰 辰の名 加の名

百瀬 百瀬の名 新羅 新羅の名 高麗 高麗の名

胡 胡の名 在泉 在泉の名

佛不 佛不の名 今格の名 今格の名

子 子の名 公藏の名 公藏の名

林をく御一皆うましく白ありやうう鶴よひる也  
河羅林也い林よらううく死多

冥途 う乃のいよ 来るるい流し ちく乃よ

うせの ころり川 ちひのふよ 海をちひ  
山をくくするなといふ ちくの海をくく生死  
さう也あう乃そこ是地獄志るの目如死よ一あ  
國とのく黄なるも也と死のくさるる人よと  
死め一来るといふるあり又海氏曰并乃わまうわ  
大物ようく死乃くくさう乃御う人くくさ  
あひはくくあうもゆらんを死ゆくくくく  
年もくくくくくくくくくくくくくくくく

極樂 乃く乃御あ 後 せくくくくく 海氏より

ち乃八交のくくくくくくくくくくくくくくくく  
母う海くくくくくくくくくくくくくくくく  
わくせくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
せ とうくくくくくくくくくくくくくくくく  
よくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

草部

草 可憐娘七條苑

くくくくくくくくくくくくくくくく  
みくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく



もののひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

かきろく

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

あまのひめ

源氏物語

卅一





うし野の海乃を多紀の上よをさ

牡丹 不葉多くさ 廿日をりさりさうくさ花あり

一鏡よやまきり花といつら牡丹也ふよなとみさ

およらわらさよふさりまといり

葵 ちかづつら ちかづつら ちかづつら

万よあつひ草花さうくとあり

一向牡丹をわかれのちかづつらあり

卯花 万え熟さあうくさの卯花とさうとあり

よまじむいさ也なうくさ 若 海色 人歌

ちかづつらとちかづつら ちかづつら ちかづつら

ともいつら 万よあつひ草花さうくとあり

後撰よ白くさ花あり 卯花月よさうの花乃をさ

の月也 卯花さうくさの月はあ也一向の月也

萱蒲 わめくさ 柳只わめくさういつら花くらな

ちかづつらとさうと海後匠奈とさうくさわ海色わ

めといさうくさおち 北歌海後難無也

万よあわめくさういつらよまじむ日いつら

花 ちかづつらとさうのう花とさうのう花とさう

ちかづつらとさうのう花とさうのう花とさう

あつひのちかづつらとさうのう花とさうのう花とさう

瞿麦 わめくさ ちかづつらとさうのう花とさうのう花とさう

ちかづつらとさうのう花とさうのう花とさう

夕顔を望み乃返とくくり 夏秋を寄よよむまを  
 らいせういよまうと 万ざとめころあまひ乃よぬひ  
 似といつり女乃あまのぬよぬ也 後撰のまてしころ  
 花らりうこといつりこ道花のちりよちわくしあか  
 める也 華ざとれそらちめ縁さうまきあわとい  
 ぶまき也 万じうひ乃おうめあてしこ

夕顔 夕顔を望み乃返とくくり

阿知佐井 万ざとめころあまひ乃よぬひ

百合 さひあま くらい くらゆり

ゆり

花 わさこ いとのしけり お あう ら 真

こらこ 母れおとまのさくららる木及たお

こらわら 下のわらきさうり一後 あうのけしよまらぬ也

あうお くらいといつり花婿もいふ也紫いふ多也

可八 らいめ乃わねとあいのあへあうまはま

よらふ らういといつり 花もがらうははまらうん

ち 必まあともいして海也

源氏 よこやうらうりあまよとめる花乃花よとま

目 方とらんよりのまらあうたあといあり

あ らぬらうらひひのまきよららといつり 又ららと

さ うくまよるるとま おうのちんち 志らひ花

ま らぬらうらあまらと



あふま地がよいくわらほふにほつらひよ同  
り也 又藤氏よりわたりはるきかおはしつて  
目 又藤氏よりわたりはるきかおはしつて  
後撰よりまきとまらぬといひ 同葉 栞葉  
もかきとれそよまらぬといふる也  
藤氏よをらぬ物ありてをさういふまの  
くことありて おぼしきまのくことおぼしきま  
かきとれそよまらぬ

荆蓋 かつらや まらぬまのふ あつや  
と きぬや 物ありてをさういふま

然勝 かりか不安 但同年分合よ 下まらぬれと  
見つ連しむらぬれあてあり

物名介未見之

華 白く けしき いろ

凡菊も万葉よ不録也 寛平菊合以後はつら物と  
かきり寛平菊合もあよ ともくまらぬ物あり  
かきり寛平菊合もあよ ともくまらぬ物あり  
かきり寛平菊合もあよ ともくまらぬ物あり

後撰 基後 凡そ何之類もあつてよ

ひるさしの 大なるを ぬんる  
さぬ河 少き升 少なさを わらぬの類

俳翁乃わつろの漢 己上菊合り  
和花之類也 物てり菊之類一説  
和華黄菊也 後出はくし  
り云はく也 文北系和菊  
之類也未生非之 之仙菊  
之類ハ畝下流らとせ  
以て物也くらりふ くらり  
ふくらりふくらりふ  
くらりふくらりふくらり  
くらりふくらりふくらり  
くらりふくらりふくらり  
くらりふくらりふくらり

菖 いもこ いろは種 白川方 白川こま

わりま いろは方 まくらる くらり海 方入り

は くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり

山菖 いろは くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり くらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

くらりこくらりも くらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらりくらり

100 100



菱 ひろをせむらりといふ

萍 さ月乃うひをといひり又月如れ徳曆よる二月

生と海如物 まもひあしといふ也 るれものいふ也

云うさふれり物物をまもえらうといひり

藤 いれは 川よりつれもの花といひり れる月も 川も

まもま あひま ころり 一歳 かる わまの也

くくも生さといふ也 あく けく 若くう女の 髪よまの

さくも色 是は非藤る半 合物さる也 かり 是又藤るの ぐくおる也

藤 ま 見と すり そのものいふことなりいふまゝ後さふりわに くらと又陸奥のいふことなりといひり

んららくぬいさるれらうらんとまてかたしともあ みるへくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

是ら中片女よあかたの華さる非陸奥如物さあわ

糸をいふかたも志くさるいふも月乃の也

芝 三 志らふ

藍 山わの 山井といひり かく

菴 初年をいふ

菴 菴 注さくさく さくさくをいふまのいふ也 ちひま

と云らるるさるるらると毎具の鏡也

日とれ葉 日とれ葉の普通通ふものいふわり 信者

乃屋よせをさくく日ん葉也 信捕抄よ信者のいふ也

葉も日とれんといふわらんといふ如物 日とれんとい

ふらふ葉よる信抄大和物語よおきせり但列地さり



是にけうとうとらふ菜也

藜菜 を飯にけうら 万後海 ゆふこ わそ はけら

くま ゆふま わら ま

蕩 ひうきうつう まさ ら

海 うら はけら のり うら ま ら ま ら ま ら

ゆふ ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

九 つ ら ま ら ま ら ま ら ま ら

と ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

く ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

芭蕉 うら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

菜 ひう ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

紅 ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

乃 ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

草 う ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

土 ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

羊蹄 い ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

白頭花 は ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

淡木綿 う ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

菜 い ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

と ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

な ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら ま ら

萃 ちろくくさ

突九刺 海食よわり ちんちんちんちん

けいせいのめま

荊 をとらるる おとらるる道 ちんちんちんちん

木賊 とくさるる ちんちんちんちん

八雲抄巻第三上終

